

■ 滝井孝作 小説家・俳人。句作鍛錬によって得た文章力で評価された。

たきいこうさく

日清戦争始 1894 = 岐阜県高山で、名人指物師滝井新三郎の次男に生まれる。母はゆき。

ヒアノ国産化 1900 = 6歳：高山尋常小学校に入学。

日比谷公園 1903 = 9歳：

日露戦争終 1905 = 11歳：母を失い、
満鉄発足 1906 = 12歳：卒業後、高山の魚問屋に丁稚奉公、

アララビ 創刊 1908 = 14歳：店の隣の青年に俳句を教わり、仕事しながら句作に励むうち、
伊藤博文暗殺 1909 = 15歳：_高山を訪れた河東碧梧桐に会って認められ、以後師として仰ぎ、句誌へ投稿。

明治天皇没 1912 = 18歳：碧梧桐と相談の上、大阪に出奔し、特許事務所に勤めながら、句作を続ける一方、
大正政変 1913 = 19歳：_処女小説「息」を投稿して、荻原井泉水に認められ、
第一次大戦始 1914 = 20歳：上京。神田の特許事務所に勤め、碧梧桐一派と俳三昧し、新聞に小説「夜の鳥」を連載、
21ヶ条要求 1915 = 21歳：早稲田大学の聴講生となる。_碧梧桐が創刊した句誌{海紅}の編集助手となる。

ロシア革命 1917 = 23歳：碧梧桐・中村不折らの書道研究誌{竜眠}の編集にも当って、文学の糧とし、

ハルビン条約 1919 = 25歳：_{時事新報}記者となっていて、芥川竜之介を知り、吉原出の榎本りんと結婚。
大暴落 1920 = 26歳：_{改造}の記者となって、志賀直哉に会い、生涯の師となる。創作に打ち込むようになり、
原敬首相暗殺 1921 = 27歳：_りんをモデルに、代表作「無限抱擁」連載を開始、句作鍛錬によって得た文章力が注目される。
水平社結成 1922 = 28歳：_りんが死去。志賀直哉に誘われ、我孫子に移り、家族同様に扱われる。
関東大震災 1923 = 29歳：_志賀が京都に移ると、その後を追い、志賀邸住み込み女性篠崎りんと再婚し、
護憲三派圧勝 1924 = 30歳：長女が誕生。「無限抱擁」連載終了。
治安維持法 1925 = 31歳：_志賀を追って、奈良に移り、

金融恐慌 1927 = 33歳：_*「無限抱擁」を刊行、絶賛される。
_この間、直哉を慕って、我孫子、京都、奈良に後を追うが、

海軍軍縮条約 1930 = 36歳：_妻の郷里八王子に移り、以後定着。妻は産婆を開業し、家計を助ける。
満州事変 1931 = 37歳：句集「折柴句集」、
五一五事件 1932 = 38歳：釣を始める。
国際連盟脱退 1933 = 39歳：「慾呆け」、

芥川直木賞始 1935 = 41歳：_創設された芥川賞の選考委員となる。
二二六事件 1936 = 42歳：郷里高山の父が死去。「山女魚」、
日中戦争始 1937 = 43歳：_俳句の師碧梧桐が死去。この年まで{海紅}への寄稿を続けた。
健保+総動員 1938 = 44歳：内閣情報部の要請で武漢作戦に従軍し、その報告を新聞に載せる。
第二次大戦始 1939 = 45歳：_以後、小説執筆を中断し、

日米開戦 1941 = 47歳：「父」刊行。陸軍航空本部の囑託となって、電報閲覧に従事、

年金+総武装 1944 = 50歳：この年まで続け、
敗戦 1945 = 51歳：八王子空襲の際は、焼夷弾を消して焼け残る。
新憲法公布 1946 = 52歳：_執筆を再開、

極東裁判決 1948 = 54歳：

朝鮮戦争始 1950 = 56歳：文壇俳句会が復活すると、常連となる一方、趨勢に背いて、「風景小説」を書き始め、
独立回復 1951 = 57歳：

テレビ放送始 1953 = 59歳：_*「野草の花」などのエッセーに独特の境地を示した。
自衛隊発足 1954 = 60歳：将棋2段免許。
この間、志賀直哉夫妻の小旅行に度々同行、
国連加盟 1956 = 62歳：将棋3段。
なべ底不況 1957 = 63歳：

美智子妃 1959 = 65歳：日本芸術院会員。
安保闘争 1960 = 66歳：将棋4段。_編纂に当たった「碧堂句集」が読売文学賞。

いざなぎ景気 1966 = 72歳：

霞ヶ関ビル 1968 = 74歳：_*短編「野趣」で読売文学賞。
全共闘ビーク 1969 = 75歳：勲三等瑞宝章。長編「俳人仲間」に着手し、

ドルショック 1971 = 77歳：志賀直哉が死去。高山市名誉市民。

石油ショック 1973 = 79歳：「志賀直哉全集」編集委員。「俳人仲間」を上梓し、
角栄金脈辞任 1974 = 80歳：将棋6段。「続俳人仲間」を始める。_日本文学大賞。文化功労者。
クアンプール事件 1975 = 81歳：八王子市名誉市民。
JALハイジャック 1977 = 83歳：初の書の個展。
成田衝突 1978 = 84歳：翌年にかけて、全集が刊行される。
中曽根内閣 1982 = 88歳：_芥川賞選考委員を辞して、
1984 = 90歳：急性腎不全で、_没した。
「続俳人仲間」は未完に終わる。
「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、インターネットWikipedia、